

『命の山王』

No. 21〔2018年10月 3日(水)〕

心に届く、拍手の力

先週の木曜日に全校講話会が行われ、秋田市地域おこし協力隊の石井宏典さんによる講話を全校生徒が聴きました。内容は「志をもつことの大切さ」「国際教養大学在学中に、秋田を日本一活気のある街にする、という志をもった」ということを中心に、多くの人との出会いや、いかに自分自身でその未来を変えていこうとしているか、ということをお話してくれました。まだ31歳という若さでありながら、実に深い考えに基づいた行動力には、とても感心させられました。特に最後のメッセージである「君たちの前には可能性しかない」という言葉は、全校生徒の胸に強く響いたと思います。

講話後に、石井さんが「こんなに力強い拍手をもらったのは初めてでした。かえって自分が勇気付けられました。」とお話になっていました。私もまったく同感で、以前から生徒の拍手の素晴らしさには気付いていましたが、今回は特にその力を感しました。それだけ講話の内容が生徒の心に残ったからだと思います。

同じように、山王中生の拍手の凄さに気付かされたことが、つい先日ありました。先月の24日に埼玉県で、埼玉栄高校吹奏楽部の演奏会が行われた時のことです。ご存じの通り、山王中の卒業生が主将を務めていたので、聴きに行ったのですが、実に素晴らしい演奏でした。私も感激したのですが、その後が驚いてしまいました。それは、拍手の量があまりにも少なく、しかもすぐに終わってしまうことに対する驚きでした。秋田のコンサートでは経験したことがなかったからです。さすがにコンサートの最後は盛り上がっていきましたが、それにしても、もしここに山王中生がいたら、こんな気の抜けた拍手は絶対にしないはずだ、と強く思ったのでした。

拍手は人の心に届くものであり、聴いている者の気持ちを表すものです。石井さんが感激してくれたように、拍手は人の心を動かすことができるのです。山王中の目指す学校像は『「やる気」が挨拶(あいさつ)、拍手、歌声となって響く学校』です。山王中生の歌声は素晴らしいです。挨拶も頑張っています。この力強い拍手も、よい伝統の1つとして確実に加えられていきそうです。

〔生徒指導主事：木内記〕

間もなく、折り返し地点！

明後日は前学期終業式で、来週から後学期に入ります。1年の半分が過ぎたこととなります。マラソンで言えば、折り返し地点を過ぎようとしているわけです。3年生は残り半年になり、2年生も中学生生活の半分か過ぎたこととなります。1年生も入学から半年が過ぎました。半年前の自分と比べてみたり、半年後の自分を想像してみるのが、今やるべきことだと思います。日頃は、そんなことを思い巡らす時間は少ないかもしれませんが、10/6～9の秋季休業の時間を利用して、じっくりと考えてみてください。

工事のお知らせです！

道路工事のお知らせです。10月上旬～1月下旬の期間、歩道融雪のための工事が行われます。場所は、山王十字路の東側(秋田駅に向かって右車線)です。車道規制や仮歩道の通行などもあるようです。工事中の場所に入ることもちろん厳禁ですが、それだけでなく、付近を通る場合は、通行に十分気を付けてください。